

手術時に休薬が必要な女性ホルモン関連製剤

2024/11改訂

◇女性ホルモン製剤には、卵胞ホルモン(エストロゲン)製剤、黄体ホルモン(プロゲステロン)製剤、卵胞・黄体ホルモン配合剤などがあり、重大な副作用に血栓症があります。
 ◇本一覧は、当院(院内・院外)採用薬と未採用の先発医薬品に関して、手術時に休薬が必要な女性ホルモン関連製剤を記載しています。
 ◇後発品に関しては一般名を参照の上、先発品の休薬期間に準じてください。
 ◇休薬期間に関しては、OC・LEPガイドライン、HRTガイドライン、各薬剤の添付文書上の術前休薬に関する記載を参考とした日数としています。患者ごとに血栓リスクを考慮して、妥当性のある休薬の有無とその期間を決定する必要があります。

●:院内採用薬 ○:院外採用薬

2024年11月

分類	採用区分	薬品名	一般名	術前休薬期間	術後再開の目安	添付文書上の休薬に関する記載
卵胞・黄体ホルモン配合剤	(薬価未収載)	○ シンフェーズT28錠	エチニルエストラジオール・ノルエチステロン	4週間	術後2週間	【禁忌】 手術前4週以内、術後2週以内、産後4週以内および長期間安静状態の患者 【重要な基本的注意】 本剤服用中にやむを得ず手術が必要と判断される場合には、血栓症の予防に十分配慮すること
		○ アンジュ21錠、28錠	エチニルエストラジオール・レボノルゲステレル			
		○ トリキュラー21錠、28錠	エチニルエストラジオール・レボノルゲステレル			
		○ ラベルフィーユ21錠、28錠	エチニルエストラジオール・レボノルゲステレル			
		○ ファボワール錠21、28	エチニルエストラジオール・デソゲステレル			
		○ マーベロン21錠、28錠	エチニルエストラジオール・デソゲステレル			
	月経困難症	○ ヤーズ配合錠	エチニルエストラジオール・ドロスピレノン			
		○ ヤーズフレックス配合錠	エチニルエストラジオール・ドロスピレノン			
		○ ドロエチ配合錠	エチニルエストラジオール・ドロスピレノン			
		○ ルナベル配合錠LD・ULD	エチニルエストラジオール・ノルエチステロン			
中用量	○ (LD・ULD) フリウエルLD・ULD (ルナベルの後発品)	エチニルエストラジオール・ノルエチステロン				
	○ ジェミーナ配合錠	エチニルエストラジオール・レボノルゲステレル				
卵胞ホルモン製剤	中用量	● ブラノバル配合錠	エチニルエストラジオール・ノルゲステレル	4週間	術後2週間	【重要な基本的注意】 血栓症のリスクが高まる状態:体を動かせない状態等が認められる場合は、投与を中止するなど適切な処置を行うこと
		○ ウェールナラ配合錠	エストラジオール・レボノルゲステレル	4週間 (4週間の休薬が望ましい。術前4週確保のための手術延期は不要)	術後2週間 または完全に歩行可能となってから	【慎重投与】 術前又は長期臥床状態の患者
	○ メノエイドコンピパッチ	エストラジオール・ノルエチステロン	【重要な基本的注意】 血栓症のリスクが高まる状態:体を動かせない状態等が認められる場合は、投与を中止するなど適切な処置を行うこと			
	○ ジュリナ錠	エストラジオール	【慎重投与】 術前または長期臥床状態の患者			
	○ (ディビゲル) デイビゲル、ル・エストロジェル	エストラジオール	【慎重投与】 手術前4週以内または長期臥床状態の患者			
	○ プレマリン錠0.625mg	結合型エストロゲン	【慎重投与】 術前または長期臥床状態の患者			
○ エストリール錠	エストリオール	【慎重投与】 術前または長期臥床状態の患者				
エストロゲン受容体修飾薬	閉経後骨粗鬆症	○ ビビアント錠	バゼドキシフェン酢酸塩	3日間	完全に歩行可能となってから	【禁忌】 長期不動状態(術後回復期、長期安静期等) 【重要な基本的注意】 長期不動状態(術後回復期、長期安静期等)に入る前には本剤の投与を中止し、完全に歩行可能となるまでは投与を再開しないこと
		● エピスタ錠	ラロキシフェン塩酸塩	3日間	完全に歩行可能となってから	【禁忌】 長期不動状態(術後回復期、長期安静期等) 【重要な基本的注意】 長期不動状態(術後回復期、長期安静期等)に入る3日前には本剤の投与を中止し、完全に歩行可能となるまでは投与を再開しないこと
ホルモン製剤	高用量黄体	○ ヒスロンH錠200mg	メドロキシプロゲステロン酢酸エステル	医師の指示	術後1週間	【禁忌】 血栓症を起こすおそれの高い次の患者 手術後1週間以内の患者 【慎重投与】 血栓症を起こすおそれのある次の患者 手術後1ヵ月以内の患者